

自律的移動支援プロジェクト

平成16年6月18日

プロジェクトの枠組み

「施設のバリアフリー」から「ユニバーサル社会」の実現へ

場所に情報をくくりつける

ーユビキタス・コンピューティング技術の活用ー

プロジェクトのめざすもの

「移動経路」「交通手段」「目的地」などの情報について、「いつでも、どこでも、だれでも」アクセスできるユビキタスな環境を構築し、誰もが持てる力を発揮し、支え合ってつくる「ユニバーサル社会」の実現

システム構築のコンセプト

オープンなシステムでつくりあげる

~わが国のICTタグなどの先端技術力を、
オープンな環境を活かし、世界に発信！
神戸での実証実験で技術を研鑽

10年後のシステムの定着を
見据え、産、学、官、市民
の知恵の結集

汎用性・拡張性のあるシステム

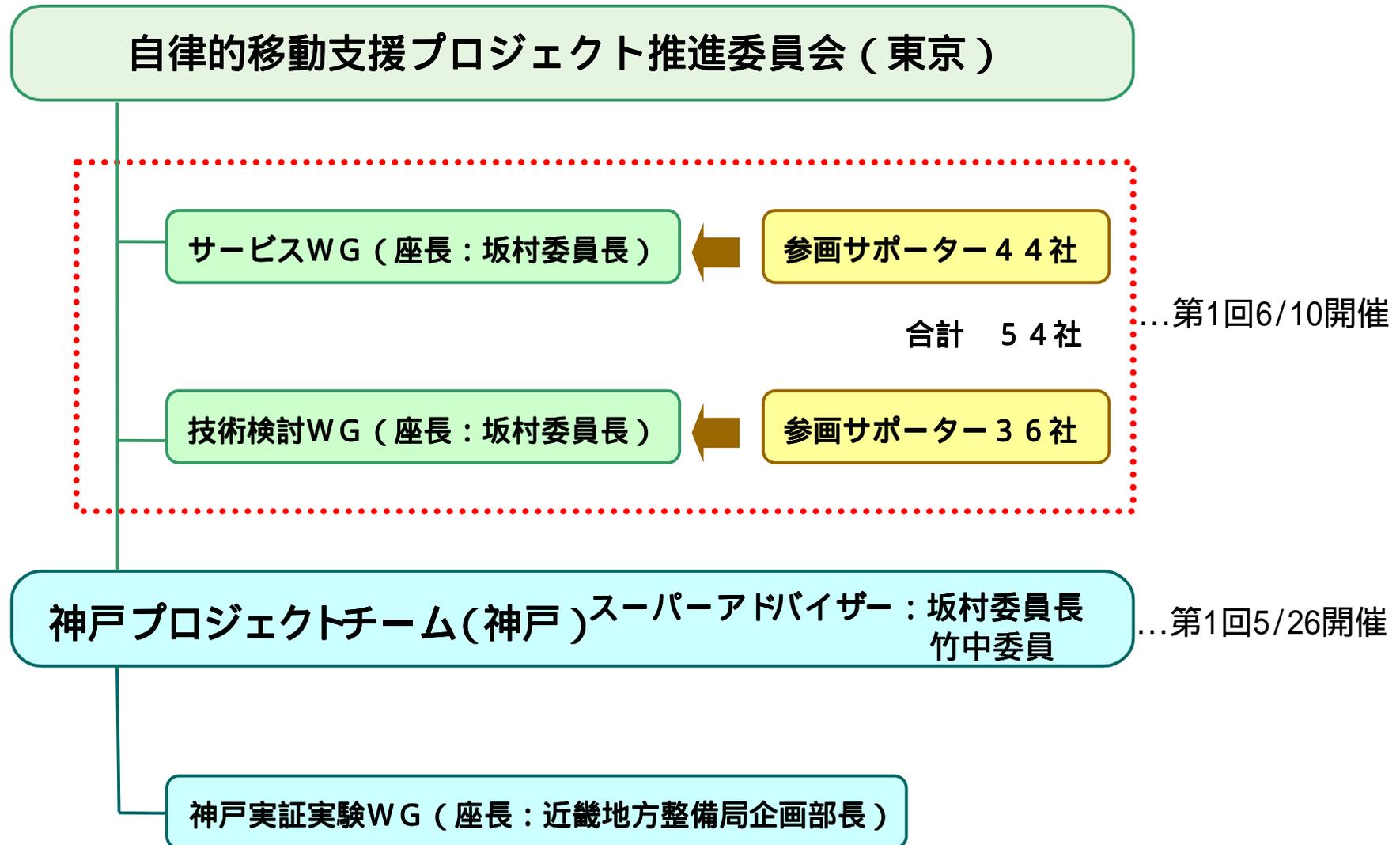
~いつでも、どこでも、だれでも
障害者の自律的移動のサポート
健常者も外国人も、容易にアクセス
災害時、救命救急などへのSOS発信、救援支援

国際標準 (Global Standard) をめざす

全体システム、要素技術に関する国際標準

プロジェクトの これまでの経緯と今後の進め方

WGの枠組み



サービスWG ①取り組み

利用者のニーズの把握

身体コンテクスト（状態）と周辺状況に応じた情報提供手法
（音声、振動、文字、ピクトグラムなど） 実証実験を通じて検討

コンテンツの検討

基幹インフラは公共側で、

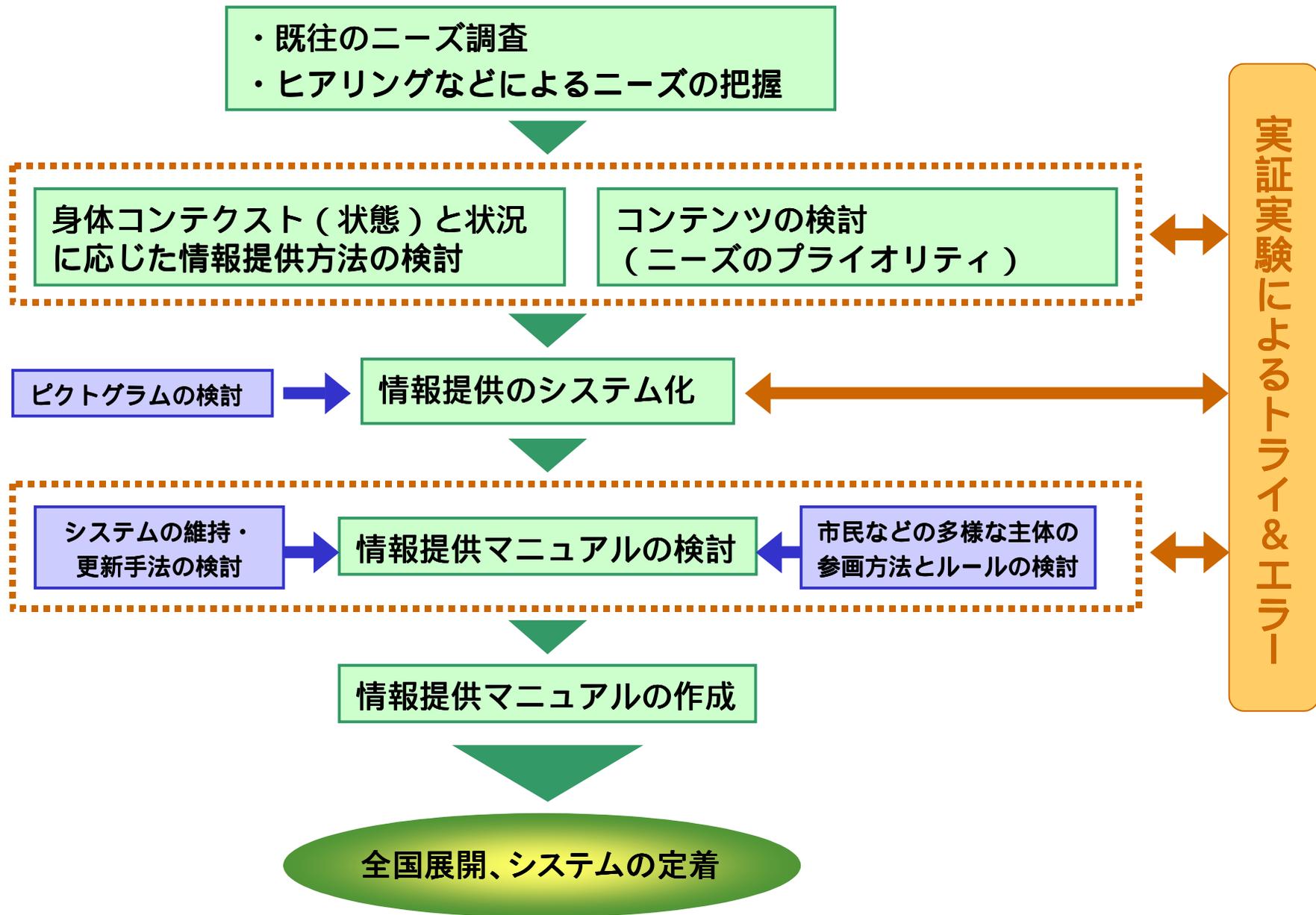
建物、店舗などは民間側で、システムが構築されるよう、

民間、個人も参画できる仕組み、ルールを定める



全国展開、システムの定着

サービスWG ②検討フロー



技術検討WG ①取り組み

技術検討の前提条件

オープンなシステムであること（技術仕様の公開）
汎用性・拡張性が高いこと
日本発の新たな国際標準の提案も視野に

サービスWGなどと連携し、技術指向から利用者指向への転換
実証実験を通じて技術の研鑽と完成度を高める

要素技術に応じ、サブWGで検討を深める

公物管理、自然災害予知技術など、他分野への技術展開を視野に

技術検討WG ②検討項目



石原国土交通大臣のデモ視察

視察日時：平成16年6月8日

視察場所：YRPユビキタス・ネットワークング研究所

視察者：

石原国土交通大臣

佐藤大臣政務官

与党ユニバーサル社会の形成促進検討PT

座長：野田聖子衆議院議員

小西理衆議院議員（総務大臣政務官）

有村治子参議院議員

江田康幸衆議院議員（経済産業大臣政務官）

石原国土交通大臣のデモ視察風景

坂村委員長講演



石原国土交通大臣デモ視察

